

# 25PB-pm273

チーム基盤型学習 (Team-Based Learning : TBL) の1年次「薬剤師の使命 I」への導入

○飯田 耕太郎<sup>1</sup>, 野田 幸裕<sup>1</sup> (<sup>1</sup>名城大薬)

【目的】名城大学薬学部では、1年次が薬剤師の果たすべき役割や職能を理解し、薬剤師としての使命感を醸成していくために「薬剤師の使命 I」を設けているが、講義形式の場合、学生は受身であった。28年度、1年次が医療や薬学の知識習得、課題解決能力、対人関係スキル、コミュニケーション能力を主体的に身につけていくことを目的としてチーム基盤型学習 (Team-Based Learning : TBL) を導入した。TBL はアクティブ・ラーニングの技法の一つで知識を応用する能動的な学習に学生を引き込むことを狙いとし、協働して学び合う能力を鍛えるチーム学習の教育法である。本発表では TBL の導入について1年次がどのように評価しているかを概括するとともに「薬剤師の使命 I」における TBL の導入について考察した。

【方法】TBL の授業は、医療現場で活躍する薬剤師によるオムニバス形式の講義と並行して実施した。学習テーマごとに2コマの講義を行い、講義と講義資料による事前(個別)学習→個人テスト(individual readiness assurance test : iRAT)→チームテスト(team readiness assurance test : tRAT)と補足説明→アピールの順に進行させ、この基本形を4つの学習テーマで繰返した。授業終了後、学生の同意を得た上で TBL の導入に関するアンケート調査を行った。

【結果・考察】TBL 導入に対する学生の評価は概ね高いものであった。受身型の講義に比べて知識を習得するのに有益と捉え楽しく学習できたとしていたことから、本年導入した TBL は良好に受け止められたものと思われる。TBL が適していた理由として個人学習では気づけなかったことがディスカッションによって気づくことができたということである。TBL は学生の主体的な学習態度を養い、学生同士で学び合う能力を向上させる教育方法として有益であることが示唆された。